

1. 評価結果概要表

作成日平成21年3月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4270400403
法人名	社会福祉法人 清和福社会
事業所名	グループホーム ゆたか荘ベルホーム
所在地	〒859-0301 長崎県諫早市長田町2781番地1 (電話)0957-23-9680

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年3月16日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】(平成21年2月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8 人 非常勤 3 人, 常勤換算 4.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	有() 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4) 利用者の概要(2月24日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	76歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	壇野医院・吉田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台に位置し、広い敷地には畑や花壇があり、開放感がある。庭には観音様を奉り、時には慰霊祭を行い、地域の人の参加がある。法人としては、同一敷地に居宅介護支援・訪問入浴・小規模多機能型居宅介護の事業所があり、他の場所に特別養護老人ホーム・保育園を運営し、地域に対して出来る事の機能を還元し、様々な方法でその人に合った施設の選択のお手伝いをしている。今年度は非常体制の強化を目標に掲げ、1年取り組んできた。また、療育音楽を取り入れ、プログラムに沿って計画的に実施しており、訪問時は入居者の歌声や拍子をとる姿を目にする事が出来、活力の引き出しの一環として、役目を果たしている。毎年度目標を掲げ、経営状況と同時に、ケア面の向上を使命として、留まる事無く、今後の取り組みが楽しみなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を改善の一端と理解し、出来る事から取り組み、職員の自主性を重んじ、向上への取り組みを期待し、改善計画シートは作成していない。災害時の取り組みや出来る事から改善に取り組んでいるが、計画的に確実に実施する為に、改善計画シートを作成し、達成度を明確にした取り組みを期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で話し合い、管理者が集約している。自己評価を実施する事で、日頃実施している事や見直しの必要な点の確認が出来、目標として掲げ取り組む事が出来成果が上がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は3ヶ月毎に実施しており、今年度は年4回開催している。参加者にはそれぞれの立場や役割を担って頂く為に、時にはメンバー宅に、意見を聞きに向く事があり、内容の充実に努力している。また、次回の開催日を約束しての閉会としている。平成21年度は2ヶ月毎の定期開催を決定している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	基本的に「困っている人のために」として、入居時に書類を含め詳細に説明し、同意を得ている。常に家族とコミュニケーションを取り、時には入居者から苦情受付書で相談を受ける事が有り、本人や家族の不安を受け、踏まえて運営に反映している。来年度は便り又はお手紙を発行し、更に密接なコミュニケーションを取る予定である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の集会や清掃に参加したり、観音様を奉り原爆慰霊祭を行い地域の人の参加がある。また、近くの小・中学校や関連法人の保育園児との交流を図っている。地域で行われる行事の情報入手に努め可能な限り参加し、時には校長先生やボランティアの人がホームを訪れ、地域とは積極的に交流している。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営の3原則は 利用者の満足 職員の生活安定 経営の健全を掲げ、入居者と職員が地域の中で、「安全・健康・尊厳・処遇・リハビリ」の全てを維持しながら生活する事を目指し、実現に向けて尽力している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を噛み砕き自分の言葉としてして、日々のケアに当たっている。理念はどちらかと言えば、ホーム側の方針であり、入居者と職員と一緒に生活する合言葉的な物ではない。		理念はホームの経営方針や、支援の目標であり、できれば地域の中で入居者と職員と一緒に生活するために、目標となる簡潔で分かりやすい文言を折込んだ、共有ができるサブ理念のようなものを作られることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の集會や清掃に参加したり、観音様を奉り原爆慰霊祭を行い地域の人の参加がある。また、近くの小・中学校や関連法人の保育園児との交流を図っている。地域で行われる行事の情報入手に努め可能な限り参加し、時には校長先生やボランティアの人がホームを訪れ、地域とは積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で話し合い、管理者が集約している。自己評価を実施する事で、日頃実施している事や見直しの必要な点の確認が出来、目標として掲げ取り組む事が出来成果が上がっている。職員の自主性を重んじ、向上への取り組みを期待し、改善計画シートは作成していない。		評価を改善の一端と理解し、出来る事から取り組み、運営の向上に尽力しているが、計画的に確実に実施する為に、改善計画シートを作成し、達成度を明確にした取り組みを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月毎に行い、今年度は年4回開催している。参加者にはそれぞれの立場や役割を担って頂く為に、時にはメンバー宅に、意見を聞きに出向く事があり、内容の充実に努力している。また、次回の開催日を約束しての閉会としている。平成21年度は2ヶ月毎の定期開催を決定している。		

グループホーム ゆたか荘ベルホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市町村の要請を受けて、講演をする機会が多く、殆ど毎日連絡を取り合ったり、市町村の機関に向いている。また、入居者で権利擁護や公的扶助を利用してあり、市町村とは密接な関係を確立し、運営の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への連絡は電話や来訪時(比較的面会者は多い)に写真を見せ、お話しをしている。現在金銭の預かりは実施していない。また、ホームの状況をお知らせする便りの発行は実施していない。		大切な家族を預けている家族に、ホームでの生活に興味を持って関わりを持つ方向付けの一端として、生活状況や行事等を載せたホーム便り又は、個別のお手紙での報告の実施を期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	基本的に「困っている人のために」として、入居時に書類に基づき詳細に説明し、同意を得ている。常に家族とコミュニケーションを取り、時には入居者から苦情受付書で相談を受ける事があり、本人や家族の不安を受け、踏まえて運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年間離職はなく、法人内の異動は職員の適正度を考慮して実施している。法人内で行き来する事が多く、入居者にとっては顔見知りで、戸惑いは殆どない。また、職員の処遇面は可能な限り前向きに対処し、現在相談室と職員休憩室の建設中であり、働きやすい職場を目指している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は救命を主体に勉強をし、毎年度研修のテーマを決め、実施している。H21年度はマニュアルの充実・見直しと職員との共有を予定している。新人研修は入社後1週間以内実施し、法人内の研修や資格取得(毎週1回本を参考に介護技術の勉強)の研修を取り組んでおり、殆どの職員が資格を所持している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、顔見知りであるが、あまり積極的には交流が行われていない。職員は個別に勉強する機会を持ち、自主的に他ホームを訪問し、学習し日々のケアに取り入れている。入居者と一緒に他ホームへ出向いたり、ホームの行事へ参加される相互関係の確立が望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	以前は全く違う機関から入居があったが、現在は通所介護・小規模多機能・支援ハウスからの入居が多い。同一敷地に有る為、時々顔を合わせる機会があり馴染みの関係から利用が始まり、入居者や家族の安心が窺える。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である入居者は様々な知恵を持ち、昔話し・紀元節の歌・花の名前・団子の作り方等沢山教えていただく事が多く、共に暮らす仲間として、尊重しながら楽しい生活を支えあっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	チェックアセスシート(8枚)に入居者の情報を記入している。現時点で十分に活用まで至っていないが、書式の整理(2~3枚に集約)を思考中である。日頃から歌や会話でコミュニケーションを取り、思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の主訴に沿って、ニーズを抽出し、サービス内容に取り入れて計画を作成している。作成後は家族に見せ了解を得ている。また、毎月カンファレンス会議を含めた職員会議を定期的に行い、職員の気付きや看護面を大切に介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間の設定を長い人は2年、短くて1年である。申し送り日々の変化や必要事項は伝達し、職員間で共有を図っている。モニタリングから計画の見直しへの一連の流れが明確でなく、現状に即した期間設定とはいえない。		短期・長期の介護計画の見直し期間の設定が1年~2年であり、期間設定が長すぎる。日々の記録で状態や計画の実施状況を記録し、それに伴いカンファレンス会議やモニタリングで達成状況を把握し、長くて3~6ヶ月毎の見直しを行い、現状に即した計画の作成が期待される。また、特変時の状況に即して、早急な変更を期待したい。

グループホーム ゆたか荘ベルホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は関連事業を多く持ち、入居者の状況に沿ってお手伝いが出来る体制である。現在、療育音楽に力をいれ、プログラムに沿って取り組み、機能の維持向上の成果が上がっている。今後も継続して、状況に応じた柔軟な支援を行っていくことを使命としている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医を大切にしており、看護師と一緒に連絡や受診を行っている。また夜間緊急時には、かかりつけ医・病歴などを記入した個別情報ファイルを救急に提出し、迅速で確実な判断をもらえるよう工夫をしている。時には認知症の専門医の受診を行い、必要に応じて対応できる体制を確立し、安心に繋げている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の説明の時に重度化に関する話しをし、家族の理解へ繋げている。終末期に向け在宅ネット事務局を利用し、家族の意向に沿って、医師を交え相談している。また、治療方法が無くなった時には状態を把握し、カンファレンスにより、最良の方法を選択し、全員で支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用契約書で、秘密保持を謳い、対応に注意を払っている。入居者との関わりは、目線を合わせ話しをする、その人の状態に合わせた声掛けを行う、居室やカーテンを閉めてケアを実施する等、常に配慮に心がけた支援を実施している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに沿うことを原則としている。時には好みの洋服の着用、療育音楽への不参加、時間をずらした食事支援、希望が言える人には、可能な限り沿うようにしており、笑顔がでる努力をしている。		

グループホーム ゆたか荘ベルホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の厨房で食事を作り、そのまま運び提供している。入居者はテーブル拭きをする事はあるが、食事のお手伝いは無い。職員が検食として、朝・夕を食べている。また、時にはホームの農園でできた野菜を使用した食事を提供している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回で発熱など健康状態を診ながら、提供している。入浴が出来ない時は、衣類交換や清拭で対応している。入浴を楽しんでいただく取り組みとして、菖蒲湯や柚子湯等、季節を取り入れた支援も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	現在は療育音楽に尽力しており、入居者はリズムを取ったり、歌ったり、歌詞本を見たり、楽しみになっている。他に、洗濯物たたみ・貼り絵(大きなお雛様の作品を壁に掲げ)・ゲーム(お手玉バスケット)・絵のカルタ・畑での収穫等、様々な場面を作り、生きがいに繋げている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は時にはホーム内の畑や花畑を眺め楽しんでいる。また、花見(桜・コスモス)のドライブをし、季節を感じたり、美しさで喜ばれる事がある。時には家族との外出をする人もあり、閉じこもらない為に、ホームの庭の観音様や花壇や畑で場面作りを実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は入居者が落ち着いており、日中は鍵をかけることはなく、夜間の戸締りでの施錠である。外出者は事務所の前を通過する事で、誰かが気付いている。万が一を考え、近くの学校や地域の人とは日頃から交流を図り、お願いをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は緊急対策を主体とした訓練と研修を実施し、AEDの導入を含め、計画的に取り組んできた。夜間は夜勤と宿直の2名体制であり、緊急連絡先を明確にして掲示している。また、備蓄は収納庫を活用し、建物の上には水タンクがあり、非常時に対応できるようにしている。今後も繰り返し訓練の実施や、職員間での情報共有の維持が期待される。		

グループホーム ゆたか荘ベルホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士により、バランスの取れた食事が提供が できている。入居者の状態に合わせた形態や病状を加 味した支援を行い、摂取量を記録している。同様に水 分摂取もチェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光が ないように配慮し、生活感や季節感を採り入れ て、居心地よく過ごせるような工夫をしている	学校の横の高台にあり、騒音は無く、静かな環境であ る。テーブルの上や玄関に季節の花を飾り、職員の配 慮が窺える。開設が平成12年であるが、掃除が行き届 き不快感を感じることは無い。天井から歌詞を掲げ、入 居者は歌を歌いながら生活を楽しんでいる姿が窺え る。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	居室には箆笥・写真・仏壇・テレビ・ソファー・コンテナ・ エレクター等必要な品を持ち込み、個性的なその人 らしい部屋作りが出来ている。入居者は我が家としてリ ビングと居室を行き来し、生活を自分の物としている。		